高志の国
文学館
KOSHINOKUNI
Museum of Literature

高志の国文学館 年報

令和４年度

高志の国文学館 年報

令和４年度

目　次

Ⅰ　令和４年度のあゆみ

令和４年度のあゆみ…… 4

Ⅱ　事業内容

1　展示活動…… 6

2　資料概況…… 18

3　教育・普及事業…… 19

4　高志の国文学館友の会…… 28

Ⅲ　管理・運営

1　利用状況…… 30

2　施設の概要…… 32

3　機構…… 33

4　組織…… 34

Ⅳ　資料

沿革…… 36

Ⅴ　関係法令

関係法令…… 40

Ⅰ　令和４年度のあゆみ

令和４年度　高志の国文学館のあゆみ

年　月　日	事　　項
令和４年４月10日	観桜の集い2022
５月22日	高志プロジェクト令和３年度認定者による研究成果報告会
５月29日	文学講座（大学連携シリーズ）（７月２日まで　全４回）
６月24日	クローズアップコーナー
	「富山を描いた文学作品―富山文学地図⑷」（令和５年６月26日まで）
同日	特別コレクション室
	「おわら風の盆の画家　林秋路特集」（令和４年10月24日まで）
６月25日	**開館10周年記念企画展「荒井良二の PICTURE BOOK＜絵・本＞」（９月５日まで）**
７月31日	読書感想文サポート講座
８月６日	第９回サブカルチャー講座―アフレコチャレンジ教室
８月20日	第９回サブカルチャー講座―イラスト体験教室
８月28日	朗読と音楽の集い2022（１月22日まで、全３回）
９月６日	文学講座（郷土と文化シリーズ）（12月11日まで　全６回）
９月10日	観月の集い2022
９月11日	高志の国文学館開館10周年記念企画特別講演会「脳と言葉」基調講演　中野信子
９月24日	**開館10周年記念企画展「没後50年　芥川賞作家　柏原兵三展」（12月５日まで）**
10月23日	なでしこ忌句の会
10月29日	特別コレクション室
	「辺見じゅん特集―『収容所から来た遺書』映画化記念」（令和５年２月20日まで）
12月24日	**開館10周年記念企画展「没後50年　川端康成 展―愛を乞う魂」**
	（令和５年２月27日まで）
令和５年２月５日	令和　梅花の宴
２月15日	ミュージアムコンサート
２月18日	文学講座（越中万葉・詩歌シリーズ、特別コレクション室展示特別講座）
	（令和５年４月９日まで　全４回）
２月22日	特別コレクション室「山根青鬼の色紙と漫画」（令和５年６月26日まで）
３月19日	**開館10周年記念企画展・Ｇ７教育大臣会合開催記念「百人一首―和歌と美の世界 展」**
	（令和５年６月５日まで）
３月25日	文芸サロン特別企画「中西進のメッセージ」

II 事業内容

1．展示活動

□常設展示

概　要

常設展示では、当館の収蔵資料を中心に、万葉歌人・大伴家持の越中万葉から現代文学に至るまで、富山県にゆかりのある作家や作品の魅力を紹介しています。また、文学だけでなく、漫画や本県ゆかりの先人についても紹介しています。平成29年４月には常設展示室のリニューアルを行い、作家の略歴等を紹介する大型タッチパネル、富山県ゆかりの作家や作品に焦点を当てて紹介する「クローズアップコーナー」、越中万葉を映像と音声で鑑賞できる映像ブース、寄贈・寄託を受けた作品や資料を中心に紹介する「特別コレクション室」が新設されました。

＜ふるさと文学の回廊＞

富山県ゆかりの代表的な文学者25人を、パネルや直筆原稿、デジタルサイネージなどで紹介。また、回廊内に設置した４つのデジタル万華鏡では、大伴家持の生涯や山岳文学、富山県ゆかりの漫画家や先人について紹介しました。

「ゆかりの文学者たち」コーナー

＜ふるさと文学の蔵①＞

古代・中世の富山県ゆかりの文学作品を紹介するとともに、大書架「知の蓄積」では、富山県ゆかりの書籍や寄贈された資料を展示しました。

クローズアップコーナー

体験型装置「万葉とばし」及び映像ブースでは、大伴家持が詠んだ歌を音と映像で紹介。「クローズアップコーナー」では、富山県ゆかりの作家や作品に焦点を当て、半年ごとに展示替えを行い紹介しました。

＜ふるさと文学の蔵②＞

「ふるさと文学年表」により、万葉の時代から続く富山の文学について、その変容と発展を時代背景とともに紹介しました。

＜ふるさと文学の蔵③＞

富山県ゆかりの漫画家をパネルや愛用品とともに紹介。デジタル装置「不思議な本」では、漫画・アニメーションの制作工程を学ぶことができる。「特別コレクション室」では寄贈・寄託を受けた作品や資料をはじめとして、年に二度、春と秋にテーマを設定して紹介。

このほか、富山大学附属図書館に所蔵されているヘルン文庫（小泉八雲の旧蔵書）資料や、富山が輩出した先人について紹介しています。

「ゆかりの漫画家」コーナー

特別コレクション室

□展示構成

令和4年3月31日現在

展示場所	展示の名称	展示の概要	
導入展示	文学鳥瞰地図	富山県内に点在する文学ゆかりの地等を検索	
	ふるさと文学万華鏡	大伴家持の生涯や山岳文学の歴史をデジタル絵巻で紹介	
ふるさと文学の回廊	「ゆかりの文学者たち」コーナー	パネル	デジタルサイネージ
		源氏鶏太 堀田善衛 柏原兵三 木崎さと子 宮本　輝 辺見じゅん 久世光彦	筏井竹の門　瀧口修造 岩倉政治　田中冬二 遠藤和子　田部重治 大井冷光　畷　文兵 翁　久充　新田次郎 角川源義　前田普羅 小寺菊子　三島霜川 佐伯彰一　横山源之助 高島　高　渡辺順三
	ふるさと文学万華鏡	富山県ゆかりの漫画家や先人を映し出すデジタル万華鏡	
ふるさと文学の蔵①	大書架「知の蓄積」	富山県ゆかりの書籍や寄贈資料を展示	
	万葉とばし	大伴家持が越中で詠んだ歌を音と映像で紹介する体験型装置	
	映像ブース	大伴家持の歌を現代語訳、解説と映像で紹介	
	「令和」記念コーナー	新元号「令和」を記念して設置	
	古代の文学／中世・近世の文学	万葉集、立山曼荼羅等を紹介	
	クローズアップコーナー	「富山を描いた文学作品―富山文学地図(4)」	
ふるさと文学の蔵②	ふるさと文学年表	万葉の時代から現代に至るまでの富山県ゆかりの文学を紹介	
ふるさと文学の蔵③	「ゆかりの漫画家」コーナー	藤子不二雄Ⓐ 藤子・F・不二雄 山根青鬼 山根赤鬼 まつもと泉 原　秀則 花咲アキラ	
	特別コレクション室	「おわら風の盆の画家　林秋路特集」 「辺見じゅん特集―『収容所から来た遺書』映画化記念」 「山根青鬼の色紙と漫画」	
	ヘルン文庫コーナー	ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） 南日恒太郎	
	「越中の先人」コーナー	安田善次郎 浅野総一郎 高峰譲吉 佐伯宗義 松村謙三 馬場はる	

（注1）ゆかりの文学者および先人の一部について、関係の機関や個人より実物資料を借用のうえ展示した。
（注2）ヘルン文庫の展示については、富山大学附属図書館の協力を得て、所蔵資料の借用・展示を行った。令和4年度は4回の展示替えを行った。

□クローズアップコーナー

「富山を描いた文学作品―富山文学地図(4)」

会　　期／令和４年６月24日㈮
～令和５年６月26日㈰
担　　当／亀島麻衣子
出品点数／23点

趣旨・総括

大伴家持が、越中の自然と風土の素晴らしさを歌に詠んだ天平時代から今日まで、富山では千年以上営々と文学作品が紡ぎ出されてきました。今回の展示では、富山県ゆかりの文学者がどのように富山を描いたのかを散文作品を通して紹介しました。

富山の美しい山河を描いた作品には、大井冷光の童話「雲の子供」や、辺見じゅんの「花子のくにの歳時記」、宮本輝の「螢川」などがあります。

富山の風土を背景とした人間模様を描いた作品には、三島霜川「水郷」、小寺菊子「河原の対面」、須山ユキヱ「延段」、堀田善衛「鶴のいた庭」、柏原兵三「長い道」、瀧口修造「三夢三話」、木崎さと子「青桐」、久世光彦「時を呼ぶ声」などがあります。富山での原体験を胸に、中央の文壇で活躍した作家の作品には、保守的な気質への反発と進取性、変革への強い意欲が感じられます。

また、地元の富山に居を定め、地元の歴史と文化に目を向けた作品には、岩倉政治「無告の記」、遠藤和子「オロロのいる村」などがあります。

展示風景

□特別コレクション室

「おわら風の盆の画家　林秋路特集」

会　　期／令和４年６月24日㈮～10月24日㈰
担　　当／綿引香織
出品点数／34点

趣旨・総括

富山県八尾町で９月１日から３日にかけて行われる「おわら風の盆」は、情緒豊かな音曲と踊りで知られる秋の風物詩です。

八尾町出身の林秋路（1903～1974）は、このおわらを題材とした多くの書画や版画を世に残した作家です。絵葉書やポスター、踊り方の図解などを描いて「おわら風の盆」の宣伝や普及に貢献したほか、おわら節の歌詞の制作も行うなど、生涯を通じておわらと深い関わりを持ちました。

秋路の作品には、踊り手や地方のしなやかな動きが美しい線で表現されており、絵に添えられた書（おわら歌詞）にも独特の味わいがあります。町の風景や四季のなかに息づくおわらを描いた数々の作品は、八尾の風土そのものの魅力を伝える無二の存在だといえるでしょう。

本展では、書画、版画、手漉き和紙、印刻など、多彩な表現方法により制作された作品のなかから、おわら風の盆をテーマにした書画、版画を中心に展示しました。木版画とともに展示した版木には、独学で習得した秋路ならではの技の一端をうかがうことができます。展示を通じて、秋路による独創的で情感あふれる「おわら風の盆」の世界をお楽しみいただきました。

あわせて、秋路の俳句についても紹介しました。

展示風景

「辺見じゅん特集―『収容所（ラーゲリ）から来た遺書』映画化記念」

会　　期／令和４年10月29日㈯
～令和５年２月20日㈪
担　　当／大川原竜一
出品点数／25点

趣旨・総括

富山県ゆかりの作家・辺見じゅん（生没年：昭和14年［1939］～平成23年［2011］）。

辺見の代表作『収容所から来た遺書』は、第二次大戦後、ソ連軍によってシベリアに連行され、極寒の強制収容所（ラーゲリ）に抑留されるも、帰国の希望を捨てず仲間を励ましつづけ、自らの信念を最後までつらぬいた、ひとりの人物の実話を描いたノンフィクション作品です。舞台化、テレビドラマ化、コミック化もされており、令和４年12月には、本作品を原作とした映画「ラーゲリより愛を込めて」（監督：瀬々敬久、出演：二宮和也、北川景子、配給：東宝）が公開されました。

本展では、映画化を記念して、辺見じゅんの『収容所から来た遺書』の草稿や構想メモ、作品執筆のための取材資料などを紹介しました。また、舞台やコミック、映画といったさまざまな媒体でメディア化された際の資料を展示しました。

会期中には、TOHO マーケティングの協力をえて、ライブラリーコーナーに映画「ラーゲリより愛を込めて」の特設コーナーを設置。映画ポスターや展示パネル、予告映像により映画の魅力を来館者に伝えることができました。さらに、「J-MAX TEATER とやま」とコラボして、映画「ラーゲリより愛を込めて」の鑑賞チケットを当館に設置した応募箱に投函すると、抽選で映画のオリジナルノベルティグッズをプレゼントするキャンペーンをはじめて実施しました。

主な展示資料

・辺見じゅん著作『収容所から来た遺書』『昭和の遺書』『ダモイ 遥かに』
・『収容所から来た遺書』草稿（昭和62年［1987］）
・辺見じゅん自筆『収容所から来た遺書』に関する構想メモ
・辺見じゅん自筆ノート「収容所から来た遺書ノート」

展示風景

「山根青鬼の色紙と漫画」

会　　期／令和５年２月22日㈬～６月26日㈪
担　　当／小林加代子
出品点数／37点

趣旨・総括

漫画家・山根青鬼は、昭和30年代から子どもたちを笑顔にする漫画を発表し、子ども大人も楽しめる漫画を描き続けています。当館では、開館当初から常設展においてその画業を紹介し、毎年干支を描いた色紙を寄贈いただき展示しています。令和４年度からはインタビュー映像「漫画は笑えるもの、心を豊かにするもの」の上映を開始しました。

本展示では開館10周年を記念し、干支の色紙のすべてと、「めだかちゃん」、「おやじバンザイ」、「名たんていカゲマン」などの掲載雑誌やコミックス、富山県ゆかりの漫画などを紹介しました。

展示風景

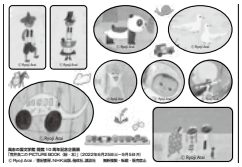
⑴開館 10 周年記念企画展「荒井良二の PICTURE BOOK ＜絵・本＞」

会　　期／令和４年６月25日㈯～９月５日㈪
主　　催／高志の国文学館
共　　催／北日本新聞社、北日本放送
特別協力／荒井良二
協　　力／射水市大島絵本館、亜紀書房、ＮＨＫ出版、偕成社、講談社、ほるぷ出版
担　　当／生田美秋（総括）　大川原竜一（主務）
観覧者数／3,542人
出品点数／350点（パネル・バナーを含む）
印 刷 物／チラシＡ４判　　ポスターＡ１判
絵本『みちはどこまでもつづいている』Ａ４判
キャラクターシールＡ６判

チラシ　表

チラシ　裏

絵本『みちはどこまでもつづいている』


キャラクターシール

趣旨・総括

世界で注目を集める絵本作家のひとり、荒井良二（1956～）。日本絵本賞大賞やボローニャ国際児童図書展特別賞など国内外で数々の賞を受賞し、2005年には、児童文学や青少年向けの文学作品にあたえられる、スウェーデンの世界的な文学賞であるアストリッド・リンドグレーン記念文学賞を日本人ではじめて受賞しました。

本展は、高志の国文学館開館10周年を記念した、はじめての絵本展です。初期から近年までの代表作を通して、“何気ない日常の中にこそ生きる喜びや希望がある”ことに気づかせてくれる、荒井の絵本の世界を紹介しました。

エントランスには、荒井が本展用に手描きしたゲートを設置。また、『きょうのぼくはどこまでだってはしれるよ』の大型パネルを壁一面に掲示するとともに、新たに制作した『森の絵本』の朗読映像を上映しました。絵本のなかに入りこんだようなワクワクする会場に設えられた導入展示は、観覧者を荒井ワールドにいざないました。

企画展示室内では、荒井の初期作品『ユックリとジョジョニ』から近年の『こどもたちはまっている』までの、代表作の絵本原画を一堂に展観しました。くわえて絵本の下絵や創作メモ、スケッチ、ドローイングなどを公開し、荒井の絵本づくりの魅力にせまりました。

また本展は、2001年のアメリカ同時多発テロ事件をうけて描かれた『はっぴぃさん』と、2008年 IBBY（国際児童図書評議会）オナーリスト（世界優良図書）に選定された『たいようオルガン』という、世界的に評価の高い２作品の原画を全点出品しました。すべての原画にはキャプションとして絵本の文章をそえており、絵本を読むように原画を鑑賞していただきました。また、荒井のアトリエ（作業場）を紹介したコーナーも設けており、絵本が生みだされる場を垣間見ることができました。東日本大震災がおきた2011年に刊行された『あさになったので まどをあけますよ』と、それと対になる『きょうはそらにまるいつき』の原画を展示したコーナーでは、両作品を読んだ園児が描いた絵をコラボ出展しました。

今回の企画展ではオリジナルのインタビュー映像も制作。各作品にこめた思いやメッセージ、制作背景などについて荒井自身が語っており、その作品の魅力を再発見することができました。

会期中には、会場内で子ども向けのクイズチャレンジを実施し、「荒井絵本キャラクターシール」をプレゼントしました。また富山県美術館と協力して、美術館の「絵本原画の世界2022」展の半券を持参し、本展のチケットを購入された方にプレゼントをおくる企画をおこないました。これは文学館と美術館が連携した初の試みであり、十分な集客効果を得ることができました。

関連イベントとしては、トーク＆サイン会を開催し、荒井さんに絵本づくりの魅力や創作の姿勢についてお話いただきました。本イベントは、本展にご協力いただいた射水市大島絵本館においても開くことができました。また、「森の学校　絵・本を作ろう！」と名づ

けた、絵本づくりのワークショップを当館ではじめて開催しました。荒井さんと県内の３年生から６年生の小学生19名が、「みちはどこまでもつづいている」というテーマで絵本を作りあげました。子どもたちは「みちはどこまでもつづいている」という文章を入れた絵を１ページずつ描き、最後には荒井さんを含む全員の作品をつないで一冊の絵本を完成。絵本は後日、荒井さんが手がけた表紙とともに製本し、参加者全員に配られました。

荒井良二手描きのゲート

「はっぴぃさん」「たいようオルガン」とアトリエコーナ

「あさになったので まどをあけますよ」
きょうはそらにまるいつき」コーナー

ワークショップ「森の学校　絵・本を作ろう！」

□関連行事

① 荒井良二開会記念トーク＆サイン会

開催日	出演者	会　場	参加者数
６月25日（土）	荒井　良二	当館ライブラリーコーナー および当館研修室101 （パブリック・ビューイング）	76名

② 荒井良二ワークショップ「森の学校　絵・本を作ろう！」

開催日	会　場	参加者数
８月21日（日）	当館研修室101	19名

③ 絵本講座「荒井良二の絵本世界」

開催日	出演者	会　場	参加者数
７月30日（土）	生田　美秋	当館研修室101	33名

④ 担当学芸員による展示解説（スライド・ビュー）

【開催日】７月９日（土）、８月13日（土）、９月４日（日）

⑵開館 10 周年記念企画展「没後 50 年　芥川賞作家　柏原兵三展」

会　　期／令和４年９月24日㈯～12月５日㈰
主　　催／高志の国文学館
共　　催／北日本新聞社、北日本放送
特別協力／柏原光太郎
担　　当／生田美秋（総括）　小林加代子（主務）
観覧者数／1,339人
出品点数／243点
印 刷 物／チラシＡ４判　　ポスターＡ１判
図録Ａ４判（80頁）

チラシ　表

チラシ　裏

図録表紙

趣旨・総括

物が豊富過ぎる程ある現代に、外套に不自由した時代の話は、もしかすると童話（メルヒェン）のような味わいを持つのではないか

（「外套」より）

陸軍中将であった母方の祖父を描いた「徳山道助の帰郷」で第58回芥川賞を受賞し、「長い道」で東京を離れ、父の故郷の富山県入善町に疎開した少年期の体験を描いた柏原兵三（1933～1972）。ドイツ文学を学び、留学し、翻訳を手がけたことによって培われたその筆致は、自らの体験と親族の人生に取材し、戦争を経て、人びとが失ったものと日々の暮らしを丹念に描き、日常にひそむひずみや奇妙さに目を凝らし、ユーモアに満ちた穏やかで強い生命力を感じさせます。その作品は、38歳の若さで世を去って没後50年を経た現在においても、不安の時代にあってどのように生きていけばよいのかを考える道を開いてくれます。

今回の企画展では、このたび新たにご遺族から寄贈を受けた5685点の資料から、芥川賞作家柏原兵三の全貌を紹介しました。展示構成を第１章「親族を描く―立身出世の系譜」、第２章「幼少期から青春時代の体験を描く―小説家志望の“自画像”」、第３章「留学体験を描く―さまよえる日本人」、第４章「随筆―時間を封じ込めた「もの」たち」として、自筆原稿、草稿、書簡、日記、写真、愛用品、スクラップ帳、絵画など、初公開資料を含め、柏原兵三が見たもの心に留めたものや、友人たちからの書簡や作品評とともに、柏原兵三が生きた時代とその作品を紹介しました。

第一章の展示風景

第二章から第三章をのぞむ

第二章より　柏原兵三が中学高校時代に描いた絵画

第三章より　ベルリン留学時代の体験を描いた小説の原稿や資料

第四章より　随筆や翻訳の仕事を紹介

□関連行事

① 記念講演「日比谷高校同級生が語る柏原兵三の思い出と「星ヶ丘年代記」の時代」

開催日	講　師	会　場	参加者数
10月29日（土）	藤井　宏昭　氏 （独立行政法人国際交流基金顧問・元駐英大使）	当館研修室101	40名

② 特別映画上映会

開催日	上映作品	会　場	参加者数
12月４日（日）	「少年時代」（東宝　1990年）	富山県教育文化会館ホール	253名

共催　公益財団法人富山県文化振興財団

③ 高校生ふるさと文学トークと講演「柏原兵三「長い道」と藤子不二雄Ⓐ「少年時代」―「闖入者」との「友情」」

開催日	講師および出演者	会　場	参加者数
10月22日（土）	県内高校生４名 遠藤　稔　氏（富山県芸術文化協会理事・「藝文とやま」編集委員長） 山田　夏樹　氏（昭和女子大学 人間文化学部 日本語　日本文学科 専任講師）	当館研修室101	16名

④ 柏原兵三出演ラジオ録音上演会＆担当学芸員による展示解説（スライド・ビュー）

※展示解説後、小さな朗読劇「長い道」（出演・中﨑圭子氏〈富山県立図書館長〉、永井清〈当館事業課長〉）を実施。

開催日	上演作品	会　場	参加者数
10月８日（土）	「朝のひと言」（ニッポン放送　1968年）	当館研修室101	12名
11月19日（土）			15名
11月27日（日）			28名

⑶開館 10 周年記念企画展「没後 50 年　川端康成 展―愛を乞う魂」

会　　期／令和４年12月24日㈯～令和５年２月27日㈪
編集委員／荻野アンナ
主　　催／高志の国文学館
共　　催／富山新聞社、富山テレビ放送
企画編集／県立神奈川近代文学館、
公益財団法人神奈川文学振興会
特別協力／公益財団法人川端康成記念会
協　　力／公益財団法人日本近代文学館
担　　当／生田美秋（総括）　亀島麻衣子（主務）
観覧者数／1,925人
出品点数／180点
印 刷 物／チラシＡ４判　　ポスターＡ１判

チラシ　表

チラシ　裏

趣旨・総括

「伊豆の踊子」「雪国」などの代表作で知られる川端康成（1899 ～ 1972）。アジアで 2 人目のノーベル文学賞受賞者として世界にその名を謳われ、没後50年となる現在も数多くの著書が読まれ続けている、日本を代表する文豪のひとりです。

日本の美を描いた作家という印象が強い川端ですが、初期のころは〈新感覚派〉の一員として、先鋭的な作品で注目されています。また、長い作家生活のなかで常に新しい芸術表現を試み、幅広いジャンルの作品を手がけました。戦後は、一般的な道徳を超えたところにある独自の美＝〈魔界〉を追求し続け、変幻自在な筆で紡いだその物語は、驚くべき多様性・多面性に満ちており、頁をめくるたびに読者を新たな世界へと誘います。

本展では、県立神奈川近代文学館で開催された企画展「没後50年 川端康成展 虹をつむぐ人」を再構成し、前半は「〈人間・川端〉孤独に生きる」、後半は「〈川端文学〉愛を見つめる」と題して紹介しました。

まず前半では、早くに天涯孤独の身になった川端の少年時代を写真や書き残した資料で紹介しました。なかには川端の父の表札もあり、川端が肉親に特別な思いを持っていたことが感じられました。一高・帝大時代については、恩人である菊池寛や婚約者であった伊藤初代の資料などを展示しました。なかには2022年春に新発見が伝えられた「篝火」草稿もあり、北陸初展示となりました。また、無二の友人である横光利一とやりとりした書簡や弔辞、新人発掘の名人として関わった年下の作家たちとの親交を示す資料を展示し、人とのつながりを大切にした川端の姿を紹介しました。

川端の孤独な魂は作品の登場人物にも反映されています。川端は人間の根源にあるものを鋭く見つめ、〈川端文学〉として発表をしてきました。後半では、川端が紡ぐさまざまな愛の世界を代表作とともにたどりました。また、編集委員の荻野アンナ氏が10作品について解説されたパネルもあわせて展示し、多面的な捉えが可能な〈川端文学〉の魅力に触れていただくことを試みました。

また、国際作家としての川端を紹介するコーナーでは、ノーベル文学賞のメダルと賞状のほか、国際ペンクラブでの活躍、自作作品の翻訳出版に関わる資料を展示しました。

そして、ノーベル文学賞受賞の 4 年後の1972年。川端は、逗子にあるマンションの仕事部屋にて自ら命を絶ちました。愛を乞う孤独な魂が救われたのか考えさせられますが、「映画化された川端作品」で紹介した作品の数々や県立富山いずみ高等学校書道部による書道パフォーマンス作品を見るにつけ、また、荻野アンナ氏による記念講演「川端康成の小説万華鏡」や大学生による白熱読書と対談「美しい日本の私・あいまいな日本の私」、担当者による展示解説の後の「小さな読書会」などの各イベントに参加された方々の姿を見るにつけ、孤独を抱えた川端が紡いだ物語が、多くの人に読み継がれていることを感じることができました。

エントランス　展示風景

「〈人間・川端〉孤独に生きる」展示風景

「北條民雄とハンセン病」展示風景

「〈川端文学〉愛を見つめる」展示風景

「国際作家として」展示風景

□関連行事

① 記念講演「川端康成の小説万華鏡」

開催日	講　師	会　場	参加者数
1月21日(土)	荻野　アンナ　氏(作家・本展編集委員)	当館研修室101	41名

② 大学生による白熱読書と対談「美しい日本の私・あいまいな日本の私」

開催日	講師および出演者	会　場	参加者数
2月4日(土)	・西田谷　洋　氏(富山大学教育学部教授) ・生田　美秋 ・富山大学の学生5名	当館研修室101	15名

③ 映画上映会「伊豆の踊子」

開催日	制　作	会　場	参加者数
2月19日(日)	日活(1963年) 西河　克己　監督	当館研修室101	57名

④ 書道パフォーマンス

開催日	揮　毫	会　場	参加者数
12月25日(日)	県立富山いずみ高等学校　書道部	当館研修室101	42名

⑤ 担当者による展示解説（スライド・ビュー）＆小さな読書会

※読書会は各回、課題図書を変えて実施

開催日	小さな読書会　課題図書	会　場	参加者数
1月7日(土)	「伊豆の踊子」	当館研修室101	11名
1月28日(土)	「雪国」		11名
2月11日(土)	『掌の小説』		19名

⑷開館 10 周年記念企画展・G7 教育大臣会合開催記念
「百人一首―和歌と美の世界 展」

会　　期／令和５年３月19日㈰～６月５日㈪
主　　催／高志の国文学館
共　　催／北日本新聞社、北日本放送
特別協力／吉海直人（同志社女子大学）、
公益財団法人冷泉家時雨亭文庫
協　　力／嵯峨嵐山文華館、滴翠美術館、
富山市立図書館
担　　当／生田美秋（総括）　綿引香織（主務）
観覧者数／3,600人
出品点数／80点
印 刷 物／チラシＡ４判　　ポスターＡ１判

チラシ　表

チラシ　裏

趣旨・総括

かるた遊びや古典教材などの形で、幅広い世代に親しまれてきた「百人一首」は、飛鳥時代から鎌倉時代に至るまでの優れた歌人百人の和歌を、『古今和歌集』以下の勅撰集の中からそれぞれ一首ずつ選んだものです。そこには、恋の歌、四季の歌など、王朝文化の粋と美意識が凝縮された世界が広がっています。

本展では、これまでの研究成果をふまえつつ、時代を超えて読み継がれる百人一首の魅力と文化的な広がりについて、美術館、図書館、個人所蔵の貴重なコレクションを通じてご紹介し、歌仙絵、かるた、浮世絵など、百人一首の多彩な世界をお楽しみいただきました。

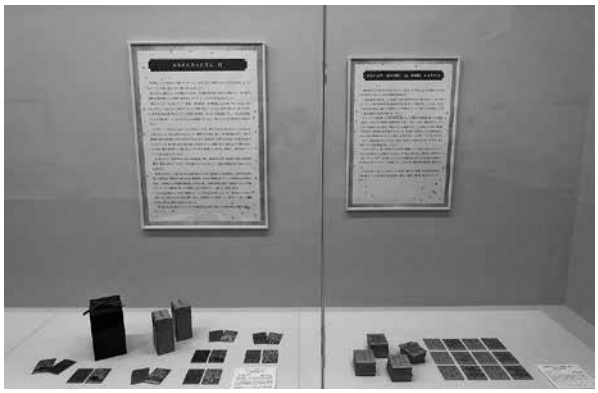
第１章「百人一首の成立　―藤原定家と百人一首」では、百人一首の典拠となった勅撰集のほか、百人一首の草稿ともいわれる藤原定家の『百人秀歌』（重要文化財）、『明月記』などの資料を通じて、百人一首成立の謎にせまりました。第２章「百人一首の興隆　―歌仙絵と書、かるたの美」では、本阿弥光悦や松花堂昭乗ら能筆家の書風による写本・版本、意匠を凝らした豪華なかるた、絵入版本など、百人一首の隆盛を示す資料を厳選して紹介しました。第３章「百人一首の広がり　―浮世絵と異種百人一首」では、江戸時代以降、現在までつながる百人一首文化の広がりを、葛飾北斎、歌川豊国、歌川国芳らによる浮世絵や、すごろく、異種百人一首などの資料により紹介しました。「百人一首　―その心を味わう」のコーナーでは、百人一首から18首をとりあげ、かるたや写真などを織り交ぜつつ、日本人の繊細な自然感覚や美意識の源流である美しい和歌の世界をご鑑賞いただきました。

回廊には、「和歌（やまとうた）の型と美　～冷泉家時雨亭文庫～」の映像上映コーナーを設けました。「わたしが選ぶ百人一首」の投票コーナーには、幅広い世代の方にご参加いただきました。

また、関連行事として、吉海直人氏、小池昌代氏による講演のほか、高校生の協力による競技かるたおよびお茶会の体験イベントを行い、好評をいただきました。

映像コーナー「和歌（やまとうた）の型と美 ～冷泉家時雨亭文庫～」

第１章「百人一首の成立 ―藤原定家と百人一首」展示風景



第２章「百人一首の興隆 ―歌仙絵と書、かるたの美」展示風景

第３章「百人一首の広がり ―浮世絵と異種百人一首」展示風景

「百人一首 ―その心を味わう」コーナー（パネル、映像）

「わたしが選ぶ百人一首」コーナー

□関連行事

① 記念講演「小さな百人一首の大きな力」

開催日	講　師	会　場	参加者数
３月19日（日）	吉海　直人　氏（同志社女子大学特任教授）	当館研修室101	41名

② 講演「歌から詩へ、物語へ―「百人一首」という宝箱」

開催日	講　師	会　場	参加者数
５月13日（土）	小池　昌代　氏（詩人、作家）	当館研修室101	51名

③ 競技かるたを体験しよう

開催日	講師・協力	会　場	参加者数
４月29日（土・祝）	中﨑　圭子　氏（富山県立図書館館長） 県立高岡高等学校競技かるた部	当館研修室101	25名

④ 日本の伝統文化を体験しよう　―百人一首の話とお茶会

開催日	講師・協力	会　場	参加者数
５月３日（水・祝）	当館学芸員 県立富山商業高等学校茶道部	当館研修室101	16名

⑤ 担当学芸員による展示解説（スライド・ビュー）

【開催日】４月22日（土）、６月３日（土）

2. 資料概況

□資料数

		印刷物（書籍･雑誌･冊子等）	自筆資料				美術品	写真	映像・音響資料	調度品・愛用品	その他	計
			原稿	原画	書簡	色紙･短冊･軸･一枚もの、その他						
～R3	購入	16,507	184	42	222	108	7	81	445	2	116	17,714
	寄贈	49,820	1,372	128	5,406	2,687	894	1,850	897	95	309	63,458
	製作	12	28	14	7	26	17	1	7	0	21	133
	小計（A）	66,339	1,584	184	5,635	2,309	918	1,932	1,349	97	446	80,793
R4	購入	285	0	0	4	0	0	0	0	0	0	289
	寄贈	807	1	0	35	93	1	3	2	5	1	948
	製作	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	小計（B）	1,092	2	0	39	93	1	3	2	5	1	1,238
～R3＋R4合計		67,431	1,586	184	5,674	2,402	919	1,935	1,351	102	447	82,031

令和２年度に資料分類の見直しを行い、令和３年度の受入資料から新分類基準を適用。
（令和２年度までの資料数の統計は、旧分類基準に依拠している）

□主な新収蔵資料

寄　贈

作者等	資料名
富本（尾竹）一枝	富本（尾竹）一枝関連資料　5点
木俣修	木俣修関連資料　103点
柏原兵三	柏原兵三関連資料（斎藤栄治宛書簡など）13点
柏原兵三	柏原兵三関連資料（平沼高明宛書簡など）15点
山根青鬼	山根青鬼氏寄贈資料（直筆色紙等を含む）12点

購　入

作者等	資料名
田中冬二	書簡　長谷川巳之吉 宛 封書 ①1967年10月9日消印　400字詰め原稿用紙2枚　メモ紙1枚 ②1969年7月9日消印　200字詰め原稿用紙12枚　便箋1枚
—	書籍『續となみやま・續ありそうみ』（鳳朗 編、1840年刊）
小寺菊子	書簡　國民新聞社學藝部 宛 葉書　1939年10月１日消印

3. 教育・普及事業

令和４年度は、高志の国文学館が2011年７月に開館して10周年を迎えた記念すべき年でした。その開館10周年を記念した特別講演会を開催したほか、文学講座、サブカルチャー講座、ライブラリーコーナーなどを活用した音楽イベントなど、多彩なイベントを実施した。

□高志の国文学館開館10周年記念特別講演会「脳と言葉」
基調講演　中野信子

開催日／令和４年９月11日㈰
会　場／富山国際会議場メインホール
参加者／700名

高志の国文学館開館10周年を記念して、脳科学者として斬新な角度から幅広く活躍されている中野信子氏を招き、「言語認知の脳科学からみた空海の文学性について」と題して、基調講演会を実施。その後、高志の国文学館中西進館長とともに、「家持･空海をめぐって」と題して、「脳の働き」「言葉の働き」の観点から記念歓談を開催。

概要
○あいさつ（富山県知事　新田八朗）
○基調講演　「言語認知の脳科学からみた空海の文学性について」　中野信子氏
○記念歓談　「家持・空海をめぐって」中野信子氏、中西進

その他のイベント

□観桜の集い2022

開催日／令和４年４月10日㈰
会　場／万葉の庭（ステージ発表）
研修室101（作品展示）
参加者／50名

令和４年４月10日（日）、桜をめでながら春にちなんだ万葉集の歌の世界などを味わう「観桜の集い2022」を開催。

可西舞踊研究所と和田朝子舞踊研究所による洋舞に始まり、中西館長らによる特別朗唱・朗読など様々な演目が披露された。最後は桐朋アカデミーオーケストラによる弦楽四重奏で締めくくった。

その他、高志の国文学館の研修室を利用している芸術文化団体による作品展示や、いけばな展示が行われ、会場は多くの人で賑わった。

□高校生のための令和万葉教室

県内の高校生に対して越中万葉、大伴家持の普及活動を行うため、講演（５回）実施。

開催日	高　校	講　師	演　題
７月８日（金）	雄山	大東文化大学外国語学部　日本語学科 教授　藏中しのぶ　氏	大伴家持「立山の賦―首并びに短歌」考 ―大伴家持にとって「立山」とは何であったのか？―
７月12日（火） ※オンライン	高岡龍谷	東洋大学文学部　日本文学文化学科 教授　菊地　義裕　氏	国司との旅―都との往来―
７月13日（水） ※オンライン	高岡工芸	奈良県立万葉文化館 企画・研究係長　井上さやか　氏	大伴家持と『万葉集』
７月14日（木）	南砺福野	國學院大學文学部　日本文学科 教授（特別専任）　上野　　誠　氏	令和を生きる
９月８日（木） ※オンライン	富山工業	東京大学大学院　総合文化研究科 教授　品田　悦一　氏	『万葉集』に投影された幻想 ―東歌の一首をめぐって

□高志プロジェクトの実施

開催日／令和４年５月22日㈰
会　場／高志の国文学館研修室101

平成25年度より、富山県ゆかりの文学や郷土の研究を行うグループや個人を公募・選考し、優れた者に奨励金を交付する「高志プロジェクト」を行っている。これは、富山県の風土や歴史、文化をより深く調査・研究し、発信することにより、郷土の文化や魅力を再認識し、次世代へ継承することを目的としたもので、令和４年度には３者が選ばれ、認定証交付式が実施された。あわせて前年度認定者による研究成果発表会も行われた。

【令和４年度認定者】

	氏　名	研究課題名
1	伴野　文亮　氏 東北大学大学院文学研究科助教	明治・大正期の富山における俳諧「旧派」の研究
2	山吉　頌平　氏 早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース在籍	中世立山信仰の探求―近世縁起の分析を中心にして―
3	Robert F. Wittkamp　氏 関西大学文学部教授	家持の「歌日記」の物語性―ナラトロジーから接近する試み

【令和３年度認定者による研究成果報告会】

	氏　名	研究課題名
1	久保　陽子　氏 富山高等専門学校専任講師	〈女性〉と〈労働〉からみた富山女性文学とその文化的背景 ―『大コメ騒動』、そして『あのこは貴族』へ―
2	黒﨑　真美　氏 金沢星稜大学女子短期大学部非常勤講師	富本一枝（尾竹紅吉）の作品調査
3	鈴木　道代　氏 創価大学学士課程教育機構特任助教	山田孝雄の万葉集研究の方法と大伴家持作品への視点

□読書感想文サポート講座

開催日／令和４年７月31日㈰
会　場／高志の国文学館研修室101

「原稿用紙がうまらない」、「何を書けばいいかわからない」といった声にお応えするため、小学校２～４年生を対象に、読書感想文の書き方講座を実施。

今回は、富山県教育委員会西部教育事務所主任指導主事の木下貴子先生と、富山大学教育学部・人文学部の学生の指導のもと、一人ひとりに丁寧に支援した。

講　座	課題図書	参加者数
小学校２年生向け講座	「ばあばにえがおをとどけてあげる」（評論社） コーリン・アーヴェリス・文　イザベル・フォラス・絵 まつかわまゆみ・訳	15名
小学校３～４年向け講座	「チョコレートタッチ」（文研出版） パトリック・スキーン・キャトリング・作　　佐藤淑子・訳 伊津野果地・絵	17名

□第９回サブカルチャー講座

開催日／令和４年８月６日㈯、８月20日㈯
会　場／高志の国文学館研修室101

芸能オフィスリレーション、金沢美術工芸大学生の講師を招き、アフレコチャレンジ教室及びイラスト体験教室を開催。

アフレコチャレンジ教室では、講師の方のお手本の後、グループごとに分かれて配役や台本の読み合わせを行い、その後、実際の映像に合わせて吹き替えを行った。

イラスト体験教室では、絵を描くためのノウハウを学び、キャラクターデザインを体験した。

開催日	講　座	参加者数
8／6（土）	アフレコチャレンジ教室	17名
8／20（土）	イラスト体験教室	15名

□朗読と音楽の集い2022

８月から令和５年１月にかけて、県内アナウンサーによる富山県ゆかりの文学作品などの朗読と、音楽演奏を組み合わせた「朗読と音楽の集い」を開催。

第１回は「おおかみこどもの雨と雪」、第２回、第３回は令和４年度の企画展に合わせた作品の朗読が行われた。

開催日	出演者	作　品	観覧者数
8 /28（日）	朗読：垣田　文子　氏（フリーアナウンサー） 演奏：佐藤　祐希　氏（ピアノ）	細田 守『角川アニメ絵本 おおかみこどもの雨と雪』	62名
11/25（金）	朗読：森本　千瑛　氏（北日本放送） 演奏：舘野　真梨子　氏（チェロ）	柏原兵三「同級会」	63名
1 /22（日）	朗読：深津　麻弓　氏（富山テレビ放送） 演奏：神保　侑典　氏（ギター）	川端康成「みずうみ」	55名

□観月の集い2022

開催日／令和４年９月10日㈯
会　場／ライブラリーコーナー
参加者／45名

令和４年９月10日（土）、中秋の名月の日にちなみ、「観月の集い2022」舞台発表を開催。

ステージでは、桐朋アカデミー弦楽三重奏団による弦楽三重奏や太田豊氏（笛、おりん、サックス）、桑原晶子氏（ピアノ）による和洋折衷ジャズコンサート、そのお二人に林恒宏氏を加え、朗読と音楽「お月さまと馬賊」が披露され聴衆を魅了した。

また、９月10日（土）～11日（日）の２日間、文学館の研修室で活動されている芸術・文化団体による作品展示や富山県華道連合会によるいけばな展示も行われた。

□なでしこ忌句の会

開催日／令和４年10月23日㈰
会　場／研修室101
協　力／富山県俳句連盟会長　中坪達哉氏
参加者／県内高等学校等教員10名
観覧者／８名

越中万葉の地の詩歌の祖である大伴家持を偲び、なでしこ忌、（瞿麦忌・くばくき）句会と称した公開句会を行った。

兼題を「なでしこ」「なでしこ忌」「瞿麦（くばく）（なでしこのこと）」とし、句会の形式で行った。今年は県内高等学校の先生方による公開句会を行い、出句の紹介、選句者の紹介、作者の紹介の順に行い、選句者、作者がコメントを出し合った。

□書道パフォーマンス

開催日／令和４年12月25日㈰
会　場／エントランス
出　演／富山県立富山いずみ高校書道部
参加者／42名

伝統文化としての書の本質を磨きながら、新しい書の魅力を探求し、新たな文化を創造することを目指して、書道パフォーマンスを開催した。

作品は企画展「没後50年川端康成展 ― 愛を乞う魂」（令和４年12月24日～令和５年２月27日）の開催中、エントランスに展示した。

□令和　梅花の宴

開催日／令和５年２月５日㈰
会　場／研修室101
参加者／21名

元号「令和」の典拠となった万葉集巻五「梅花の宴32首」及びその序文にならい、「令和　梅花の宴」と称し、万葉ゆかりの地、高志の国での文化的催しとして行った。

富山県歌人連盟の推薦による参加者21名が一人２首を、朗詠、朗誦等、自由な形で発表した。

□ミュージアムコンサート

開催日／令和５年２月15日㈬
場　所／ライブラリーコーナー
参加者／56名

県にゆかりのある若手演奏家の発表の機会を創出するとともに、県民の皆さんに、身近な場所で質の高い音楽鑑賞の機会を提供するため、美術館や歴史的建造物などを活用したミュージアムコンサートを開催。

演奏は山本　奈央 氏（オカリナ）田村　緑 氏（ピアノ）。

□文芸サロン特別企画「中西進のメッセージ」

開催日／令和５年３月25日㈯
場　所／研修室101
参加者／77名

高志の国文学館の開館以来、文学館の大きな土台を作り、支えてきた中西館長が令和５年３月末に勇退することをうけ、富山県詩人協会顧問の池田瑛子氏を聞き手に迎え、開催した。

□令和4年度文学講座

令和４年度の文学講座は、「大学連携シリーズ」、「郷土と文化シリーズ」及び「越中万葉・詩歌シリーズ」を開催した。

大学連携シリーズ

開催日	講座名	講　師	受講者数
5 /29（日）	外国児童文学の中の日本人―多文化社会の“人種”への感受性	富山国際大学現代社会学部 教授　渡部　恵子　氏	37名
6 / 4 （土）	『承久記』諸本の特色を考える	富山大学学術研究部 人文科学系 講師　長村　祥知　氏	49名
6 /18（土）	構造物の健全性の診断 ―その道、通っていいですか？―	富山大学学術研究部 都市デザイン学系 准教授　河野　哲也　氏	35名
7 / 2 （土）	『家なき子』の作者エクトール・マロの社会派小説	富山大学学術研究部 人文科学系 准教授　梅澤　礼　氏	37名

郷土と文化シリーズ

開催日	講座名	講　師	受講者数
9 / 6 （土）	プロレタリア短歌とその時代・社会	桃山学院大学社会学部 社会学科 准教授　松澤　俊二　氏	29名
9 /17（土）	郷土の偉人 バイオテクノロジーの父 高峰譲吉　～没後100年を迎えて～	高峰譲吉博士研究会 理事長　清水　昌　氏	41名
10/ 1 （土）	国誉	コクヨ株式会社 会長　黒田　章裕　氏	40名
10/30（日）	文人池田彌三郎の肖像	評論家 松澤　俊二　氏	41名
11/26（土）	故郷を愛した絵本作家　～井口文秀～	朝日町読み聞かせ活動グループ 塚田　実知代　氏	38名
12/11（土）	「小泉八雲（ラフカディオ・ハーン） ―オープン・マインドでみた日本の美―」	小泉八雲記念館館長 島根県立大学短期大学部 名誉教授　小泉　凡　氏	39名

越中万葉・詩歌シリーズ

開催日	講座名	講　師	受講者数
2 /18（土）	画像で語る　シルクロードと大伴家持の時代 ―遥かなる敦煌からの「伝言」	金沢星稜大 名誉教授　藤井　一二　氏	54名
3 / 5 （日）	富山の万葉故地を訪ねた歌人たち	富山県歌人連盟 名誉会長　米田　憲三　氏	57名
3 /18（土）	幻想の神聖皇統―大伴家持吉野賛歌 （巻一八・四〇九八～四一〇〇について）	東京大学大学院人文科学研究科 教授　品田　悦一　氏	40名
4 / 9 （日）	山根青鬼先生の漫画教室	漫画家 山根　青鬼　氏	27名

□映画パネル展

会　場／ライブラリーコーナー

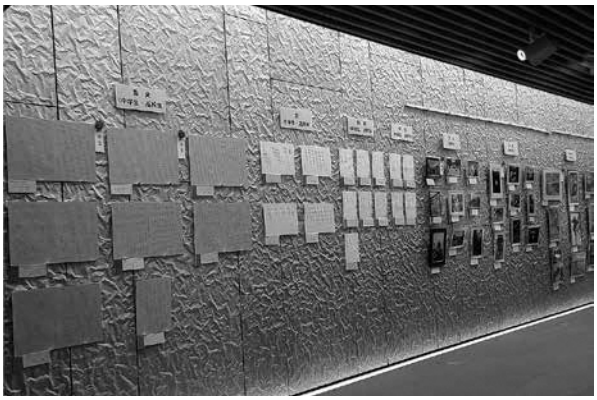
高志の国文学館では、富山県を舞台にした映画等、県ゆかりの映画の公開に合わせてライブラリーコーナーにおいてパネル展を開催。パネル展では、映画で使用された台本や、プロモーション映像、ロケ地マップ、映画シーンのパネルなどを展示。

○映画「幻の蛍」
○映画「川っぺりムコリッタ」
○映画「ラーゲリより愛を込めて」

□「高志の国文学」情景作品コンクール

開催日／令和４年10月29日㈮～11月５日㈯
会　場／高志の国文学館エントランスロビー

このコンクールは、「ふるさと文学」に親しみ、郷土を一層深く理解しようとする機運を高めることを目的に、県内の中学校、高等学校、高等専門学校（３年まで）、特別支援学校（中学・高等部）を対象に募集した。



□文学館教育・啓発アウトリーチ事業

著名な作品や富山ゆかりの作品のパネルを小・中・高校等向けに貸出。

令和４年度は新たに「柏原兵三が描いた子ども時代」を計25枚作成し、パネルを貸出。

またライブラリーコーナーでは、「詩をよむ歓び・楽しみ」パネルの一部を展示紹介。

4. 高志の国文学館友の会

高志の国文学館友の会は、文学館の開館に先立つ平成24年６月18日、「文学館の事業に基盤をおいて、ふるさと文学を中心とする幅広い芸術文化に関する活動を通して、多くの人々が生涯学習の機会を持ち、会員相互に親睦を深めるとともに、文学館と連携し、文学館の活動を広く支援していくことを目的」として設立された。

令和４年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、主要イベントである県内バスツアー及び研修旅行を中止とした。

会員数　420名（令和５年３月31日現在）

一般会員	273		
法人会員	11		
５年会員（個人）	116	５年会員（法人）	1
賛助会員（個人）	16	賛助会員（法人）	1
学生会員	2		

会　費

一般会員	2,000円
学生会員	1,000円
法人会員	20,000円
５年会員（個）	10,000円
５年会員（法）	100,000円
賛助会員	一口10,000円

特　典

・文学館ニュースや各種行事案内の配布
・文学館及び友の会主催行事への優先参加
・文学館が発行する図録等の割引購入
・文学館内レストランの飲み物代優待

令和４年度事業

【県内バスツアー】（中止）

・県内映画ロケ地訪問～富山の自然、文化施設巡り～
　令和４年６月
　富山県［立山博物館］、眼目立山寺、大コメ騒動ロケ地など
・富山の自然と美術館を愉しむ
　～黒部峡谷トロッコ電車・下山芸術の森発電所美術館～
　令和４年９月
　黒部峡谷トロッコ電車、黒部川電気記念館、下山芸術の森発電所美術館など

【研修旅行】（中止）

「新潟文学ゆかりの地を訪ねて」
　令和４年５月～６月
　ドナルド・キーン・柏崎、旧齋藤家別邸、會津八一記念館、今代司酒造、良寛記念館、小川未明文学館ほか

「巨大な書架に囲まれた図書空間“角川武蔵野ミュージアム”と近代日本経済の父 渋沢栄一のゆかりの地を訪ねて」
　令和４年11月～令和４年３月
　角川武蔵野ミュージアム、ところざわサクラタウン、武蔵野樹林、さいたま文学館、旧渋沢邸、渋沢栄一記念館ほか

理事会

令和４年５月22日（月）

Ⅲ　管理･運営

1．利用状況

(1)入館者数・観覧者数

区　分	会　期	日　数	入館者	企画展観覧者	常設展観覧者	観覧者計	1日あたり
個性きらめく富山の女性作家たち 展　第２期	R4.3.30～ R4.6.6	60	14,298	1,568	1,576	3,144	52
荒井良二の PICTURE BOOK ＜絵・本＞	R4.6.25～ R4.9.5	63	14,955	3,542	2,747	6,289	100
没後 50 年　芥川賞作家 柏原兵三展	R4.9.24～ R4.12.5	60	13,506	1,339	1,356	2,695	45
没後 50 年　川端康成 展	R4.12.24～ R5.2.27	50	11,081	1,925	1,577	3,502	70
常設展のみ		70	16,249		1,255	1,255	18
常設展入れ替え（ライブラリーのみ）							
合　計		303	70,089	8,907	8,511	17,418	57
休館日		62					

開館日数／303日うち　臨時開館　2日（５月２日、８月12日）
休館日数／62日
開館時間／９時30分から18時まで（観覧受付は17時30分まで）
休 館 日／火曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始（12月29日から１月３日）

⑵研修室の利用状況

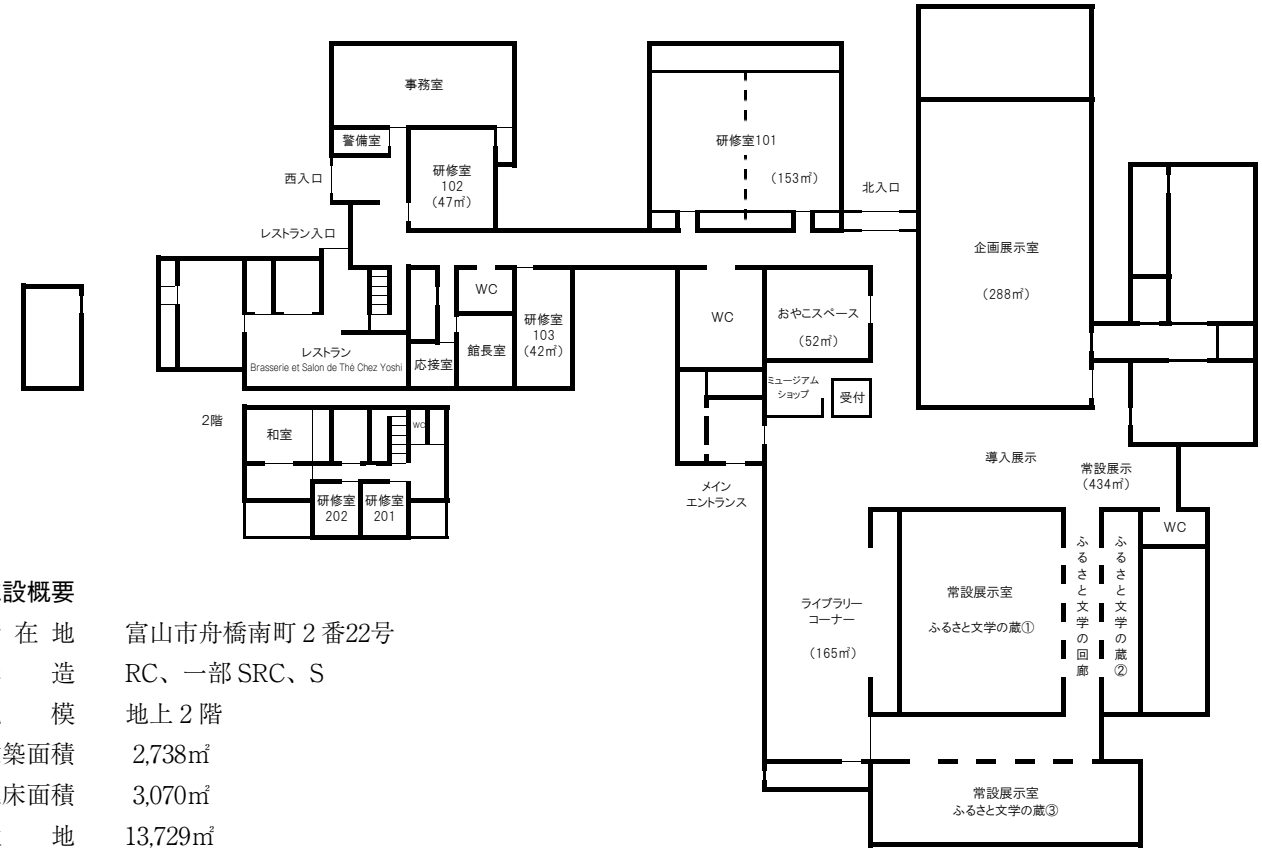
年	月	開館日数	休館日数	研修室101		研修室102		研修室103	
				件数	人数	件数	人数	件数	人数
4	4月	26	4	20	201	25	106	40	376
	5月	26	5	16	225	18	108	34	246
	6月	26	4	21	268	23	80	41	285
	7月	27	4	23	368	16	98	34	212
	8月	26	5	19	371	13	31	37	198
	9月	25	5	30	479	22	51	35	218
	10月	27	4	22	339	23	95	35	292
	11月	23	7	24	340	27	126	32	162
	12月	24	7	22	221	20	91	34	196
5	1月	24	7	9	148	22	51	28	164
	2月	22	6	27	721	20	42	33	314
	3月	27	4	21	337	21	66	39	253
合　計		303	62	254	4,018	250	945	422	2,916

年	月	研修室201		研修室202		和　室		合　計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4	4月	22	58	10	15	28	84	145	840
	5月	23	60	8	13	22	54	121	706
	6月	24	53	8	17	29	80	146	783
	7月	21	48	5	8	32	79	131	813
	8月	29	59	19	25	27	61	144	745
	9月	22	48	26	47	19	51	154	894
	10月	19	50	16	38	19	68	134	882
	11月	15	30	9	18	20	46	127	722
	12月	17	37	11	18	25	58	129	621
5	1月	18	42	11	18	15	43	103	466
	2月	19	40	13	25	22	55	134	1,197
	3月	24	60	20	44	19	57	144	817
合　計		253	585	156	286	277	736	1,612	9,486

⑶年度別利用状況

区　分	開館日数	入館者	企画展観覧者	常設展観覧者	観覧者合　計	1　日当たり	研修室利用	
							件数	人数
平成24年度	222	121,211	21,653	30,668	52,321	236	1,364	11,807
平成25年度	307	126,470	25,017	30,431	55,448	181	1,337	12,592
平成26年度	305	115,866	16,232	19,705	35,937	118	1,650	14,875
平成27年度	305	107,391	13,133	16,341	29,474	97	1,592	13,196
平成28年度	303	108,138	13,839	16,260	30,099	99	1,817	14,104
平成29年度	308	109,466	16,070	17,279	33,349	108	1,959	14,067
平成30年度	306	104,208	22,402	22,172	44,574	146	1,836	13,116
平成31年度	308	116,548	27,456	27,497	54,953	178	2,024	13,466
令和2年度	287	62,154	9,384	8,362	17,746	62	1,322	6,993
令和3年度	279	58,868	7,950	7,374	15,324	55	1,439	7,618
令和4年度	303	70,089	8,907	8,511	17,418	57	1,612	9,486
合　計	3,233	1,100,409	182,043	204,600	386,643	1,337	17,952	131,320

2. 施設の概要



施設概要

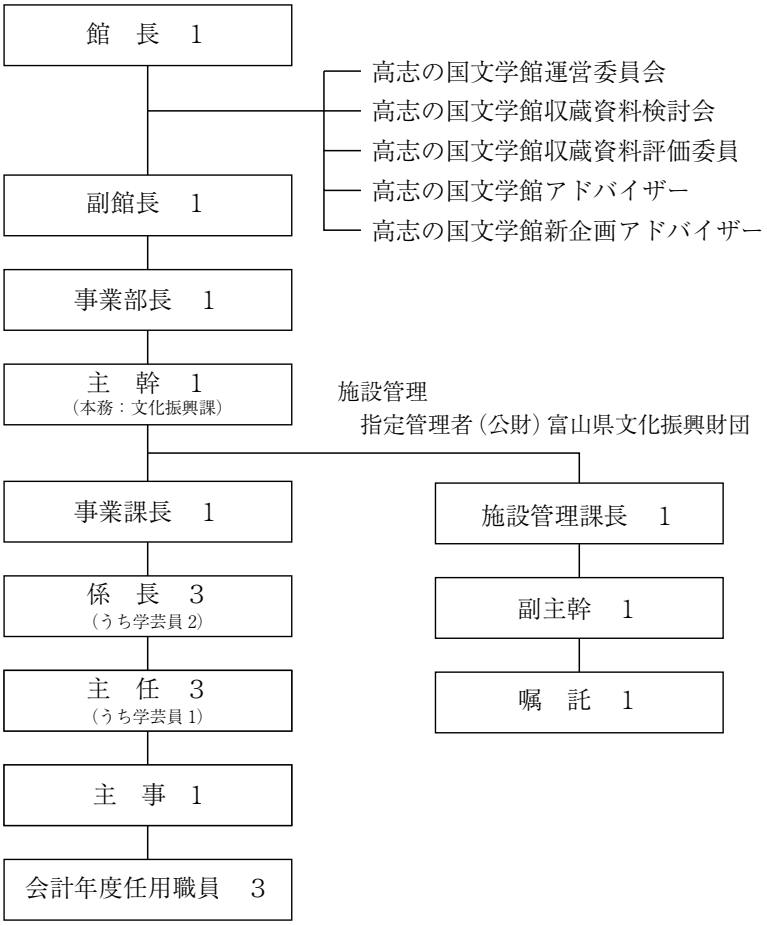
所 在 地	富山市舟橋南町２番22号
構　　造	RC、一部 SRC、S
規　　模	地上２階
建築面積	2,738㎡
延床面積	3,070㎡
敷　　地	13,729㎡
設　　計	シーラカンスアンドアソシエイツ
工事施工	日本海建興、酒井建設、辻建設、乃村工藝社　ほか
総 工 費	1,947,135,080円
工　　期	起工　平成23年７月４日
	竣工　平成24年７月３日

受賞等の記録

全建賞	一般社団法人全日本建設技術協会	平成25年６月28日
中部建築賞	中部建築賞協議会	平成25年12月11日
日本建築学会作品選奨	一般社団法人日本建築学会	平成26年５月30日
第44回富山県建築賞	富山県建築賞協議会	平成26年１月24日
JIA 優秀建築賞	公益社団法人日本建築家協会	平成27年４月24日
うるおい環境とやま賞	富山県	平成27年11月25日
ＢＣＳ賞	一般社団法人日本建設業連合会	平成28年11月24日

3. 機構

令和5年3月31日現在



□指定管理者の指定状況

平成24年７月～平成26年度	（公財）富山県文化振興財団
平成27年度～平成31年度	（公財）富山県文化振興財団
令和２年度～令和６年度	（公財）富山県文化振興財団

□職員名簿

職	氏　名	備　考
館　長	中　西　進	
副 館 長	森　田　真　己	
事業部長	生　田　美　秋	
主　幹	朝　山　弘　康	本務　文化振興課主幹
事業課長	永　井　清	
係　長	谷　口　万里子	兼務　文化振興課
係　長	綿　引　香　織	学芸員
係　長	大川原　竜　一	学芸員
主　任	亀　島　麻衣子	
主　任	小　林　加代子	学芸員
主　任	林　優美子	兼務　文化振興課
主　事	福　澤　頌　大	兼務　文化振興課
会計年度任用職員	坂　田　吏永子	
会計年度任用職員	高　田　志津子	
会計年度任用職員	松　永　美　和	
施設管理課長	広　田　英　貴	
副 主 幹	角　波　学	
嘱　託	魚　屋　美智乃	

4. 組織

令和5年3月31日現在

□高志の国文学館運営委員会委員

氏　　名	役　職　等
上田　洋一	富山県歌人連盟会長
上野　　誠	國學院大學文学部日本文学科教授（特別専任）
木下　　晶	（一社）富山県芸術文化協会会長
國香真紀子	富山県小学校長会副会長
杉木　裕矢	日本青年会議所富山ブロック協議会長
飛田　久子	富山県婦人会副会長
中垣　理子	世田谷文学館学芸部長
羽根　　由	（株）ＰＣＯ取締役会長、富山経済同友会常任幹事
三谷美栄子	公募委員（パッチワーク講師）
麦野　英順	（株）北陸銀行特別顧問、富山経済同友会代表幹事
本島　直美	富山県ＰＴＡ連合会参与

□高志の国文学館収蔵資料検討会委員

氏　　名		役　職　等
委　　員	木下　　晶	（一社）富山県芸術文化協会会長
	中井　敏郎	東亜薬品（株）代表取締役会長
	中村　只吾	富山大学人間発達科学部准教授
	久泉　迪雄	富山県歌人連盟顧問
	山崎　一穎	全国文学館協議会会長

□高志の国文学館アドバイザー

氏　　名	役　職　等
篠田　正浩	映画監督
滝田洋二郎	映画監督
藤子不二雄Ⓐ	漫画家

□高志の国文学館新企画アドバイザー

氏　　名	役　職　等
太田麻衣子	クリエイティブ・ディレクター
菓子　　浩	ドラマプロデューサー
柏原光太郎	文芸宣伝
高成麻畝子	在京テレビ局・海外事業部
本木　克英	映画監督
山内マリコ	作家

Ⅳ 資　　料

沿革

年　月　日	事　　項
平成24年７月６日	開館
７月６日	開館記念展「大伴家持と越中万葉―風土とこだまする家持の心」開催
７月15日	入館者1万人達成
８月８日	**秋篠宮同妃両殿下ご夫妻並びに佳子内親王殿下ご来館**
12月８日	開館記念展Ⅱ「富山が育んだ少年時代―小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道―」開催
平成25年２月３日	**入館者10万人達成**
３月20日	特別展「おおかみこどもの雨と雪―大自然に生きる母と子の物語―」開催
４月７日	写真展「入江泰吉と奈良を愛した文士たち」開催
５月26日	入館者15万人達成
７月７日	特別展「立山曼荼羅を文学する」開催
８月10日	特別展「辺見じゅんの世界」開催
10月10日	**入館者20万人達成**
10月18日	**高円宮妃殿下ご来館**
11月３日	中西進館長　文化勲章受章
11月17日	企画展「『世界のムナカタ』を育んだ文学と民藝―棟方志功の感応力」開催
12月14日	中西進館長　富山県特別栄誉賞授与式・文化勲章受章記念講演会　開催
平成26年３月20日	企画展「まんが家　藤子・Ｆ・不二雄のＳＦ（すこし・ふしぎ）」開催
４月６日	入館者25万人達成
４月26日	棟方志功未公開作品特別展示　開催
７月26日	企画展「風の盆　深奥の心をさぐる」開催
８月４日	**入館者30万人達成**
10月10日	ギャラリー展「竹久夢二展」開催
10月30日	企画展「川の文学―うつりゆく富山の歴史の中で―」開催
平成27年１月７日	ギャラリー展「「冷光文庫」展―富山におり立った「雪の女王」を訪ねて―」開催
１月28日	企画展「川の文学　美しきふるさと―富山の川をめぐる文学と美術の交響―」開催
３月13日	企画展「三禅定の旅―立山・白山・富士山をめぐる―」開催
５月20日	ギャラリー展「豊かなイマジネーション　妖怪がひそむ富山の民話」開催
５月29日	特別企画展「『田園発 港行き自転車』藤森兼明　挿絵原画展」開催
７月11日	企画展「あの日、青い空から―久世光彦の人間主義」開催
７月19日	**入館者40万人達成**
９月９日	ギャラリー展「「海」物語　憧れ・神秘・畏怖～海づくり大会によせて～」開催
10月18日	企画展「山の湯の詩情―田中冬二へのいざない」開催
平成28年１月23日	企画展「松本清張を魅惑した北陸―ミステリー文学でたどる―」開催
３月21日	企画展「夢二の旅―たまき・翁久允とのゆかりにふれつつ」開催
６月３日	ギャラリー展「富山映画展―スクリーンの中の人と風景―」開催
７月３日	**入館者50万人達成**
７月９日	企画展「面白い箱！アニメづくりのスタジオの中へ」開催
10月29日	企画展「浅野総一郎―九転十起の生涯」開催
平成29年１月14日	企画展「知られざる作家の世界―書簡から直筆原稿、書画まで」開催
３月19日	企画展「官人 大伴家持―困難な時代を生きた良心」開催
５月29日	**天皇皇后両陛下ご視察**
６月11日	企画展「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉」開催
同日	**入館者60万人達成**
７月23日	企画展「おわらと林秋路―風の盆の画家」開催
10月14日	特別展「宮本輝―人間のあたたかさと、生きる勇気と。」開催
12月16日	企画展「竹久夢二　音楽を描く」開催

年　月　日	事　　項
平成30年３月18日	企画展「歌人 大伴家持―現代と響き合う詩心」開催
５月14日	**入館者70万人達成**
６月10日	企画展「没後20年 星野道夫の旅 Selection」開催
８月11日	企画展「里中満智子「愛」のテーゼ」開催
10月17日	特別展「堀田善衛―世界の水平線を見つめて」開催
平成31年１月６日	企画展「北の命の物語展 倉本聰と点描画」開催
３月17日	企画展「家持発見―響き合う詩歌と絵画」開催
４月27日	**入館者80万人達成**
令和元年５月25日	企画展「宮沢賢治　童話への旅」開催
７月27日	企画展「谷川俊太郎の宇宙」開催
10月６日	特別展「藤子不二雄Ⓐ展―Ⓐの変コレクション―」開催
令和２年１月19日	企画展「生誕110年　中島敦展」開催
２月16日	**入館者90万人達成**
４月11日	企画展「生誕170年　ラフカディオ・ハーンの共感力―発見、探求、そして発信へ」開催
７月26日	企画展「国際アンデルセン賞受賞記念展　角野栄子の魔女」開催
９月20日	企画展「米国アカデミー賞監督　滝田洋二郎 展」開催
令和３年２月６日	企画展「久泉迪雄の書斎から―“悠かなり 富山の文化”」開催
４月29日	企画展「映画監督　本木克英 展」開催
７月10日	企画展「まど・みちおのうちゅう―「ぞうさん」の詩人からの手紙」開催
10月２日	**入館者100万人達成**
10月30日	企画展「太宰　治　創作の舞台裏 展」開催
令和４年１月16日	企画展「個性きらめく富山の女性作家たち 展」第１期　開催
３月30日	企画展「個性きらめく富山の女性作家たち 展」第２期　開催
６月25日	開館10周年記念企画展「荒井良二の PICTURE BOOK< 絵・本 >」開催
９月24日	開館10周年記念企画展「没後50年　芥川賞作家　柏原兵三展」開催
12月24日	開館10周年記念企画展「没後50年　川端康成 展―愛を乞う魂」開催
令和５年３月19日	開館10周年記念企画展・Ｇ７教育大臣会合開催記念「百人一首―和歌と美の世界 展」開催
３月31日	**入館者110万人達成**

V 関係法令

高志の国文学館条例

平成23年９月28日
富山県条例第41号
改正　平成24年６月29日条例第38号
平成26年３月26日条例第21号
平成28年３月25日条例第22号
平成31年３月15日条例第９号
平成30年３月26日条例第19号

高志の国文学館条例を公布する。

高志の国文学館条例

（趣旨）

第１条　この条例は、高志の国文学館の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第２条　富山県の自然及び風土の中ではぐくまれた文学作品その他の文学関係資料を紹介し、文学に関する県民の知識を深め、教養の向上を図るとともに、県民自らが親しみ、学び、創造し、交流することができるよう、県民に文学を中心とする文化活動の場を提供し、もって教育、学術及び文化の振興並びに心豊かな地域社会の形成に寄与するため、高志の国文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

（位置）

第３条　文学館は、富山市に置く。

（事業）

第４条　文学館は、次に掲げる事業を行う。

⑴　文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者に関する資料（以下「文学資料」という。）を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。

⑵　文学資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、及び研修室等を設置してこれを利用させること。

⑶　文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。

⑷　文学資料に関する専門的な調査研究を行うこと。

⑸　文学資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

⑹　前各号に掲げるもののほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な事業

（指定管理者による管理）

第５条　知事は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の２第３項の規定により、法人その他の団体であって知事が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に文学館の管理を行わせるものとする。

（指定管理者が行う業務）

第６条　前条の規定により指定管理者に行わせる管理の業務は、次に掲げる業務とする。

⑴　文学館の施設及び設備の維持管理に関する業務

⑵　第13条第１項の規定による専用使用の承認に関する業務

⑶　第15条第１項に規定する使用料の徴収に関する業務

⑷　その他文学館の管理に関して知事が必要と認める業務

（休館日）

第７条　文学館の休館日は、次に掲げる日とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、休館日以外の日に休館し、又は休館日に開館することができる。

⑴　火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たる場合を除く。）

⑵　休日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は休日に当たる場合は、その日後においてその日に最も近いこれらの日以外の日）

⑶　12月29日から翌年の１月３日までの日

（平28条例22・一部改正）

（開館時間）

第８条　文学館の開館時間は、午前９時30分から午後６時までとする。ただし、研修室及び和室の開館時間については午前９時30分から午後９時まで、駐車場の開館時間については午前９時から午後９時30分までとする。

２　前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると認めるときは、開館時間を臨時に変更することができる。

（平24条例38・平28条例22・一部改正）

（入館の拒否及び制限）

第９条　指定管理者は、文学館に入館しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入館を拒否することができる。

⑴　他の入館者に迷惑となる行為をするおそれがあるとき。

⑵　施設、設備又は文学資料（次条第１項第２号において「施設等」という。）を汚損し、又は損傷するおそれがあるとき。

２　指定管理者は、文学館の管理上必要があると認めるときは、入館を制限することができる。

（遵守事項等）

第10条　文学館に入館した者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

⑴　他の入館者に迷惑となる行為をしないこと。

⑵　施設等を汚損し、又は損傷しないこと。

⑶　指定された場所以外の場所で喫煙又は飲食をしないこと。

⑷　その他知事が特に指示した事項

2　知事は、文学館に入館した者が前項の規定に違反したときは、その者に退館を命ずることができる。

（常設展示観覧料及び企画展示観覧料）

第11条　常設展示室において展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第１に定める金額の常設展示観覧料を納めなければならない。ただし、企画展示観覧料を納める者は、この限りでない。

2　企画展示室において特別に展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第１に定める金額の企画展示観覧料を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（特別観覧）

第12条　文学館に展示し、又は保管している文学資料について学術研究等のために模写、模造、撮影等をしようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2　前項の承認には、文学資料の管理上必要な条件を付することができる。

3　第１項の承認を受けた者は、別表第１に定める金額の特別観覧料を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（専用使用の承認等）

第13条　文学館の施設のうち別表第１に掲げるものを専用して使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。承認を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2　指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が第９条第１項各号のいずれかに該当すると認めるとき、その他文学館の設置の目的を達成するについて不適当と認めるときは、前項の承認をしないものとする。

3　第１項の承認には、文学館の管理上必要な条件を付することができる。

（平24条例38・一部改正）

（施設使用料及び駐車料金）

第14条　前条第１項の承認を受けた者（以下「専用使用者」という。）は別表第１に定める金額の施設使用料を、駐車場を使用する者は別表第２に定める金額の駐車料金を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（使用料の徴収方法）

第15条　常設展示観覧料、企画展示観覧料及び特別観覧料並びに施設使用料及び駐車料金（以下「使用料」という。）は、知事の発行する納入通知書により徴収する。ただし、これにより難い場合においては、口頭又は掲示の方法により現金で徴収する。

2　使用料は、前納とする。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（平24条例38・一部改正）

（使用料の減免）

第16条　知事は、特別の理由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

（使用料の還付）

第17条　既に徴収した使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（専用使用の承認の取消し等）

第18条　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第13条第１項の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

⑴　専用使用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

⑵　専用使用者が偽りその他不正の手段により第13条第１項の承認を受けた事実が明らかとなったとき。

⑶　専用使用者が第13条第３項の規定による承認の条件に違反したとき。

⑷　その他文学館の管理上特に支障があると認められるとき。

（高志の国文学館運営委員会）

第19条　文学館に高志の国文学館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2　委員会は、文学館の運営に関し知事の諮問に応ずるとともに、知事に対し意見を述べるものとする。

第20条　委員会は、委員20人以内で組織する。

2　委員の任期は、２年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3　委員は、再任されることができる。

（平28条例22・一部改正）

第21条　委員会に、委員長及び副委員長１人を置く。

2　委員長及び副委員長は、それぞれ委員が互選する。

3　委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

（規則への委任）

第22条　この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附　則

（施行期日）

1　この条例は、平成23年10月１日から施行する。ただし、第５条から第21条まで、附則第２項及び別表第１の規定は、規則で定める日から施行する。

（平成24年規則第40号で附則第１項ただし書に規定する規定は、平成24年７月６日から施行）

（平24条例38・一部改正）

（施設使用料の特例）

2　前項の規則で定める日から起算して２年を経過する日までの間における別表第１の４の規定の適用については、同表中「4,350円」とあるのは「2,900円」と、「860円」とあるのは「570円」と、「3,890円」とあるのは「2,590円」と、「770円」とあるのは「510円」と、「1,390円」とあるのは「930円」と、「280円」とあるのは「190円」とする。

（平24条例38・平26条例21・一部改正）

附　則（平成24年条例第38号）

（施行期日）

1　この条例は、平成24年７月６日から施行する。

（経過措置）

2　この条例の施行の日から平成25年３月31日までの間における第６条の規定の適用については、同条第１号中「施設」とあるのは「施設（駐車場を除く。）」と、同条第３号中「使用料」とあるのは「使用料（駐車料金を除く。）」とする。

附　則（平成26年条例第21号）抄

（施行期日）

1　この条例は、平成26年４月１日から施行する。

（高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置）

3　この条例の施行の際現に第８条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第８条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成28年条例第22号）

この条例は、平成28年４月１日から施行する。

附　則（平成30年条例第19号）

この条例は、平成30年４月１日から施行する。

附　則（平成31年条例第９号）抄

（施行期日）

1　この条例は、平成31年10月１日から施行する。

（高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置）

3　この条例の施行の際現に第９条、第13条、第16条、第20条、第21条、第35条又は第36条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第９条、第13条、第16条、第20条、第21条、第35条又は第36条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第１（第11条、第12条、第13条、第14条関係）

（平24条例38・旧別表・一部改正、平26条例21・一部改正、平30条例19・平31条例９・一部改正）

1　常設展示観覧料

区　分	金額（１人１回につき）
個人	200円
20人以上の団体	160円

備考　小学校の児童、中学校の生徒、高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者に係る常設展示観覧料は、無料とする。

2　企画展示観覧料

１人１回につき1,500円の範囲内で知事が定める金額

3　特別観覧料

１回１点につき4,200円の範囲内で知事が定める金額

4　施設使用料

区　分		使用時間３時間までの金額	超過時間１時間の金額
研修室１	全部使用	14,420円	3,610円
	２分の１使用	7,170円	1,790円
研修室２		4,430円	880円
研修室３		3,960円	780円
研修室４		1,420円	290円
研修室５		1,420円	290円
和室		1,700円	340円
附属設備		実費を勘案して知事が定める額	

備考

1　使用時間１時間未満の端数は、１時間として計算する。

2　使用時間を短縮した場合においても、施設使用料は、減額しない。

別表第２（第14条関係）

（平24条例38・追加、平31条例９・一部改正）

種　別	単　位	金　額
基本料金	入場した時から１時間までにつき１台	330円
加算料金	入場した時から１時間を超える時間30分までごとにつき１台	110円

高志の国文学館条例施行規則

平成24年７月５日
富山県規則第43号
改正　平成28年３月31日規則第32号

高志の国文学館条例施行規則を次のように定め、公布する。

高志の国文学館条例施行規則

（趣旨）

第１条　この規則は、高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（入室時間）

第２条　高志の国文学館（以下「文学館」という。）の常設展示室及び企画展示室に入室できる時間は、午前９時30分から午後５時30分までとする。ただし、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

（平28規則32・一部改正）

（特別観覧の承認申請）

第３条　条例第12条第１項の規定により文学館に展示し、又は保管している文学資料（条例第４条第１号に規定する文学資料をいう。第６条及び第９条において同じ。）の模写、模造、撮影等（以下この条において「特別観覧」という。）の承認を受けようとする者は、特別観覧をしようとする日の７日前までに、高志の国文学館文学資料特別観覧承認申請書（様式第１号）を知事に提出するものとする。

（平28規則32・一部改正）

（専用使用の承認申請）

第４条　条例第13条第１項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けようとする者は、高志の国文学館施設専用使用承認申請書（様式第２号）を指定管理者に提出するものとする。

２　前項の申請書は、専用して使用しようとする日（次条第１項において「専用使用日」という。）の３月前から前日までの間に提出するものとする。ただし、指定管理者が文学館の施設の使用に支障がないと認めるときは、この限りでない。

（専用使用の変更）

第５条　条例第13条第１項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けた者（次項及び第８条において「専用使用者」という。）は、専用使用日を変更しようとするときは、専用使用日の前日までに指定管理者の承認を受けるものとする。

２　専用使用者は、やむを得ない理由により当該承認に係る時間を超えて文学館の施設を使用する必要があるときは、あらかじめ指定管理者の承認を受けるものとする。

（平28規則32・一部改正）

（観覧料の減免）

第６条　条例第16条の規定により常設展示観覧料又は企画展示観覧料（以下この条において「観覧料」という。）を減免することができる場合及びその場合における減免の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

⑴　条例別表第１の１の表の備考に規定する者又は幼稚園の幼児の引率者が教育課程に基づく教育活動又は社会教育関係団体の教育活動として、常設展示室において展示している文学資料又は企画展示室において特別に展示している文学資料（以下この項において「常設展示等」という。）を観覧する場合　観覧料の全額

⑵　児童福祉法（昭和22年法律第164号）第７条第１項に規定する児童福祉施設に入所し、又は通所している者及びこれらの引率者が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑶　身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第４項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人（当該交付を受けた者１人につき１人に限る。以下この項において同じ。）が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑷　療育手帳制度について（昭和48年９月27日付け厚生省発児第156号厚生事務次官通知）に基づき療育手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑸　精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第２項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑹　70歳以上の者が常設展示室において展示している文学資料を観覧する場合　常設展示観覧料の全額

⑺　前各号に掲げるもののほか、知事が特別の理由があると認める場合　知事が必要と認める額

２　前項第１号又は第２号に掲げる場合における観覧料の減免は高志の国文学館観覧料減免申請書（様式第３号）を知事に提出することにより、同項第３号から第５号までに掲げる場合における観覧料の減免は身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の確認により、同項第６号に掲げる場合における常設展示観覧料の減免は同号に該当することを証するに足りる書類の確認により、同項第７号に掲げる場合における観覧料の減免は別に定めるところにより行うものとする。

（平28規則32・追加）

（駐車場を使用できる自動車）

第７条　文学館の駐車場を使用することができる自動車は、道路交通法（昭和35年法律第105号）第３条の普通自動車（積載物又は取付物を含めて、長さ５メートル以下、幅２メートル以下、高さ２．２メートル以下のものに限る。）とする。

（平28規則32・旧第６条繰下）

（原状回復及び点検）

第８条　専用使用者は、その使用を終えたときは、直ちに施設及び設備を原状に復するとともに、指定管理者の点検を受けるものとする。

（平28規則32・旧第７条繰下）

（施設等の汚損又は損傷の届出）

第９条　文学館の入館者は、施設、設備又は文学資料を汚損し、又は損傷したときは、直ちにその旨を指定管理者に届け出て、その指示に従うものとする。

（平28規則32・旧第８条繰下）

（高志の国文学館運営委員会）

第10条　高志の国文学館運営委員会（以下「委員会」という。）は、委員長が招集する。

２　委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（平28規則32・旧第９条繰下）

（細則）

第11条　この規則に定めるもののほか、文学館の管理及び運営に関し必要な事項は、知事が定める。

（平28規則32・旧第10条繰下）

附　則

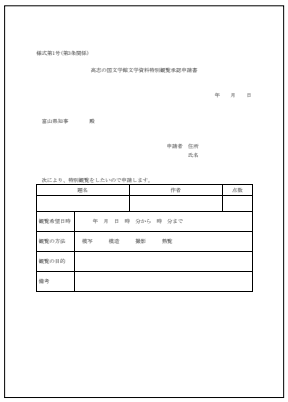
この規則は、平成24年７月６日から施行する。

附　則（平成28年規則第32号）抄

（施行期日）

１　この規則は、平成28年４月１日から施行する。

様式第１号（第３条関係）


様式第1号(第3条関係)

高志の国文学館文学資料特別観覧承認申請書

年　月　日

富山県知事　　殿

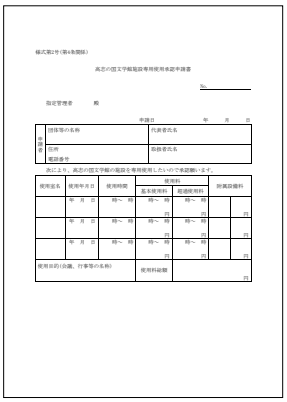
申請者　住所
氏名

次により、特別観覧をしたいので申請します。

題名	作者	点数

観覧希望日時	年　月　日　時　分から　時　分まで
観覧の方法	模写　構造　撮影　熟覧
観覧の目的	
備考	

様式第２号（第４条関係）


様式第2号(第4条関係)

高志の国文学館施設等専用使用承認申請書

No.

指定管理者　　殿

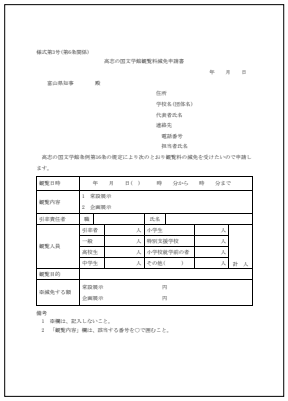
申請日　　年　月　日

申請者	団体等の名称	代表者氏名
	住所 電話番号	担当者氏名

次により、高志の国文学館の施設を専用使用したいので承認願います。

使用室名	使用年月日	使用時間	使用料 基本使用料	使用料 超過使用料	附属設備料
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円	円
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円	円
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円	円
使用目的(会議、行事等の名称)			使用料総額		円

様式第３号（第６条関係）


様式第3号(第6条関係)

高志の国文学館観覧料減免申請書

年　月　日

富山県知事　　殿

住所
学校名(団体名)
代表者氏名
連絡先
電話番号
担当者氏名

高志の国文学館条例第16条の規定により次のとおり観覧料の減免を受けたいので申請します。

観覧日時	年　月　日(　)　時　分から　時　分まで					
観覧内容	1　常設展示 2　企画展示					
引率責任者	職		氏名			
観覧人員	引率者	人	小学生	人		
	一般	人	特別支援学校	人		
	高校生	人	小学校就学前の者	人		
	中学生	人	その他(　)	人	計	人
観覧目的						
免減免する額	常設展示	円				
	企画展示	円				

備考
1　※欄は、記入しないこと。
2　「観覧内容」欄は、該当する番号を○で囲むこと。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程

平成24年７月５日
富山県訓令第10号

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程を次のように定め、公表する。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程

（趣旨）

第１条　この訓令は、県職員及び県費負担教職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例（昭和26年富山県条例第73号）第４条第１項及び富山県職員の勤務時間に関する規程（昭和27年富山県訓令第１号）第３条の規定に基づき、高志の国文学館の職員（知事の指定する者を除く。以下「職員」という。）の勤務時間に関し必要な事項を定めるものとする。

（勤務時間）

第２条　職員の勤務時間は、午前８時30分から午後５時15分までとする。

２　高志の国文学館長（以下「館長」という。）は、業務の状況により必要があると認めるときは、勤務時間を繰り上げ、又は繰り下げることができる。

（週休日及び勤務時間の割振り）

第３条　館長は、職員の週休日を日曜日及び土曜日以外の日とすることができる。

２　職員の勤務時間の割振りは、館長が定める。

（休憩時間）

第４条　職員の休憩時間は、１時間とし、館長が勤務時間の途中に置く。

附　則

この訓令は、平成24年７月６日から施行する。

高志の国文学館の使用料の額について

平成24年７月５日
富山県告示第317号
改正 平成26年３月26日告示第148号
平成31年３月29日告示第169号

高志の国文学館の使用料の額について

高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号）別表第１の４の表の知事が定める額は、次のとおりとし、平成24年７月６日から施行する。

品　名	単　位	金　額
ビデオプロジェクター（スクリーン付）	1式	2,980 円
拡声装置（マイク付）	1式	2,540 円

備考　この表に掲げる金額は使用時間３時間についての額とし、使用時間３時間未満の端数は３時間として計算する。

改正文（平成26年告示第148号）抄

平成26年４月１日から施行する。

改正文（平成31年告示第169号）抄

平成31年10月１日から施行する。

令和4年度 高志の国文学館 年報

令和５年９月30日発行
編　集　高志の国文学館
富山県富山市舟橋南町2-22
TEL 076-431-5492
印　刷　北日本印刷株式会社
発　行　高志の国文学館

※許可なく転載、複製することを禁じます。